

小学校EFLにおけるオーセンティック教材としての 英語絵本の可能性

メタデータ	言語: Japanese 出版者: 神戸常盤大学・神戸常盤大学短期大学部 公開日: 2021-03-31 キーワード: EFL(English as a foreign language), 文学, 英語絵本, 音読 作成者: 脇本, 聡美, WAKIMOTO, Satomi メールアドレス: 所属:
URL	https://doi.org/10.20608/00001133

総説

小学校EFLにおけるオーセンティック教材としての 英語絵本の可能性

脇本 聡美¹⁾

The possibility of English picture books as authentic material in elementary EFL

Satomi WAKIMOTO¹⁾

要旨

EFL 授業において、もっと意味が重視されるべきだという観点から、本稿では、オーセンティック教材としての英語絵本の可能性を探求する。まず、文学作品を外国語学習の教材とすることの3つの利点を先行研究により明らかにする。1つ目は、意味ある文脈の中で語学力を磨くことができること、2つ目は、目標言語が使われる文化を、想像力を使い経験することで学習者の人間的成長が期待できること、3つ目は、楽しみながら目標言語を学べることである。次に、作家の物語と画家の絵で構成される絵本は文学作品であるという立場から、英語絵本が小学校のEFLにおいては、英語の物語を理解しながら英語音声の特徴を習得する音読活動に効果的な教材であることを示す。このような観点から、EFL教材に適した8つの英語絵本作品を提案する。今後は、高学年児童が低学年児童に英語絵本を読み聞かせる活動を実践し、英語絵本のEFL教材としての有用性を調査することを課題としたい。

キーワード：EFL (English as a foreign language)、文学、英語絵本、音読

Abstract

From the view point that more focus should be put on meaning in English as a foreign language (EFL) classes, this paper examines how authentic English picture books are as learning material. First, the three advantages of using literature in foreign language classes are clarified based on prior research: to acquire a foreign language in meaningful context, to expect learners' mental development by experiencing the culture of a target language in using their imagination, and to learn a target language with pleasure. Then, it is shown that picture books, which consist

1) 教育学部こども教育学科

of pictures and stories created by artists, are considered a form of literature. It is argued that English picture books are effective material for activities such as understanding a story in English, and reading it aloud in elementary EFL. From this view point, eight English picture books are suggested. Finally, further study is suggested to inquire into the effect of English picture books as EFL material by practical research, for instance through the activity of fifth and sixth graders reading English picture books to first and second graders.

Key words: EFL(English as a foreign language), literature, English picture books, reading aloud

1. はじめに

EFL (English as a foreign language) の授業において使用されるテキスト (text) は、ほとんどが教科書である。日本の EFL の教科書は、日本語を第一言語とし、外国語として英語を学ぶ学習を対象に作成されたテキストである。このような教材に対して、オーセンティック (authentic) と呼ばれる教材がある。オーセンティック教材を使うということは、教科書のように教育目的で作られたものではないテキストを教材として使用することを言う。例えば、小説、短編、詩、絵本、新聞や雑誌の記事、歌詞、商品のパンフレットなど、外国語を教えるためだけでなく、メッセージを伝えることを第一義に作られたテキストを外国語学習の教材として使うことである。

本来、言語はメッセージ授受を媒介する手段である。外国語の授業においても、スペルや文法といった形式と同様に、意味を伝え合う知的道具を身につけるといふ側面が重視されるべきではないか。学習者の想像力に働きかけ、知識を感情的な意味と結びつける学びを目指すイーガン¹⁾が「授業の本質は意味に関わることでなければならない」と指摘するように、文法や例文を記憶させることばかりを求める外国語授業では、生徒の想像力は活性化されず、知識が意味と結びつくことは期待できない。形式重視で、学習者に語彙、文法、例文を記憶することを主な活動とする学習¹⁾に警鐘を

鳴らす英語教育研究者もいる。柳瀬²⁾は、多くの英語授業で見られる、生徒が覚えたモデル文を使って英語で会話を行う活動を、「教科書などのモデル英文をできるだけ正確にかつ高速に引用する競争」の「引用ゲーム」と呼び、引用ゲームではコミュニケーション能力は身につかないと述べる。さらに、アレン玉井³⁾も「使用しているテキストや教材に出てきた単語や表現などを覚えて言っているだけの活動が多く」、「最も大切なことは子どもたちが「意味ある文脈 (meaningful context)」の中で言葉に接することができているかどうか」だと述べている。

英語授業において意味が重視されるべきであるという観点から、オーセンティック教材の可能性について探求することは意義あることだと考える。本稿では、文学作品を外国語学習の教材とすることの利点を先行研究から明らかにする。その上で、英語絵本をオーセンティック教材として使用することの意義を論じ、小学校での EFL 教材に適した 8 つの作品を提案する。

2. 外国語授業教材としての文学作品

2.1 文学作品の価値

外国語授業において文学作品を教材として使うことは、学習者の語学力を高めるだけでなく、目標言語の文化の知識を深めるといふ効果が期待できることが Collie & Slater⁴⁾ や Tuemer⁵⁾ によって指

摘されている。Collie & Slaterによると、文学作品とは人間の本質に関わる問題を時間や文化を超えて読者に伝える文字で書かれた authentic material であるⁱⁱ⁾。そして文学作品を使って外国語を学習することで、学習者は目標言語が使われる文化への洞察を深め、豊かな文脈の中で語彙や統語的な事項を学ぶことができる。さらには、想像力を使って作品で描かれる世界に入り込むという経験もできると述べる。そして、実際に ESL (English as a second language) 授業で使える作品と活動を、ワークシートなどとともに紹介している。Tuemer は、Ann Petry の短編 “Like a Winding Sheet” を教材とした授業の受講生と教師を対象に、文学作品を使った EFL 授業における効果について調査を行っている。目標言語で書かれた文学作品を読み、作品を題材とした活動を行うことで、受講生は特に語彙の面で語学力を伸ばし、目標言語が話される文化（この実験の場合はアメリカ）に対する知識の深まりや気づきにおいて成果を上げた。新しい知識は感情と経験を伴った学びにより確固としたものとなるが、Tuemer は、文学作品を読み、表現することは、学習者の感情に働きかけ、文化を経験させることだと論じている。

文学作品を外国語学習に取り入れることには3つの利点があると考えられる。1つ目は、学習者がその文化の優れた作家の紡いだ文章に触れ、意味ある文脈の中で語学力を磨けることである。読むだけでなく、作品について表現する活動も行うことで、学んだ言葉の使い方を学ぶこともできる。2つ目は、作品を読んで想像力が触発され、目標言語が使われる文化を経験することにより、その文化についての知識が得られることである。感情を伴い得られた知識は、その文化に対する理解を深め、異なる文化への受容力も高め、人間的な成長をももたらす。3つ目は、楽しみながら目標言語が学べることである。文学作品は教育的意図により創られたものではない。文学の面白さは、読者が作品から受け取るメッセージに共感することで、

喜びや満足を得ることだ。人間の本質を描き、読者の感情に訴えるという点において、文学作品は知識が感情と結びつくという点で、非常に優れた教材になり得る。

2.2 絵本の文学的価値

日本の小学校の EFL 授業で取り扱える文学作品は英語絵本であろう。ここでは、絵本の文学としての価値について述べる。まず、文学的な価値のある絵本とはどのような絵本であろう。スミス⁶⁾は、優れた絵本の条件として次の4点を挙げている。「発想は新鮮で独自の空想の富んでいる」、「しっかりしたテーマ」と「はっきりしたプロット」があること、そして主人公に「読者である子どもが自分と同一視できるもの」である。松居⁷⁾は、「絵本は物語と絵で構成された文学的要素と美術的要素を併せ持つ総合芸術だ」と述べている。絵本は物語を楽しむ喜びを子どもに与えるが、挿絵は子どもが物語を理解し、物語のイメージをつくりだす手助けをするという点において、大切な役割を果たす⁸⁾。ニコラエヴァとスコット⁹⁾は、絵本が芸術として際立っているのは、絵とことばという二つの異なる種類のコミュニケーション方法が組み合わさっていることであると論じる。つまり、文学作品としての絵本は、物語（はっきりしたプロット）と絵により作家が作り出す空想の富んだ世界を楽しみ、人間やこの世界の本質についてのメッセージ（しっかりしたテーマ）を持ち、読者が想像力を駆使して主人公と自分を同一視することで、そのメッセージを、共感を持って受け取ることを可能にする複合芸術なのである。このような作品から得られた人間や世界の本質に関わるメッセージは、子どもたちに人生における大切な知恵となる。柳田¹⁰⁾は「生きていくうえで一番大事なものは何かといったことが、絵本の中にすでに書かれている」と述べている。

音読で楽しむ作品であるという点も絵本という文学の特徴である。松居¹¹⁾が、絵本は「大人が子

どもに読んでやる本」であると言うように、絵本の多くは声に出して読んで楽しむ、または誰かを楽しませることを念頭に、作家が紡いだ文で構成される。そのように考えると、絵本の楽しみは、物語と絵とそれを語る音声の3要素から成っているということができる。音声という要素が入っていることが、外国語学習の優れた教材となる大事は要因である。

絵本の文学的価値に目を向け、目標言語で書かれた絵本を外国語学習の教材とすると、文学作品を使って目標言語を学ぶ機会が提供され、文学を外国語学習に取り入れることによる、前述の3つの利点を享受することが可能となる。

3. EFL教材としての英語絵本

3.1 EFLにおける英語絵本

外国語としての英語授業に英語絵本を使うことは、英語で語られる物語の内容理解と音読の2つにおいて利点があると考えられる。前述の通り、絵本は物語と絵と音声の3要素で成り立つ作品からである。内容理解には、挿絵が有効な手助けとなる。1つ1つの単語の意味や文構造を明示的に教えることをしなくても、学習者は絵を手掛かりに物語の内容を汲み取ることができる。リーディングのメカニズムは、大きく分けると、ボトムアップ・アプローチとトップダウン・アプローチの2つであると言われる。外国語学習では、単語の意味や文構造からテキストを読解するボトムアップ式の学習法が主流となりがちであるが、自分が持っている知識や経験を使ってテキストの内容をホリスティック (holistic) に捉え、内容を理解するトップダウン・アプローチもバランス良く取り入れることが大切だと指摘されている¹²⁾。絵本は、挿絵を手掛かりに英語で語られる物語を理解するという活動が可能であるため、トップダウン・アプローチにおいて効果的な教材となり得る。

作家が紡いだことばを音声で楽しむ作品である

ことから、英語絵本を音読の教材とすることは、英語の響きの面白さや美しさに触れる活動が可能になる。小学校では、日本語と外国語の音声の違いに気づくことで、外国語のリズムや発音を楽しみながら活動することが求められる¹³⁾。英語絵本の音読は英語の音声の特徴やリズムを楽しむために最適な活動だろうⁱⁱⁱ⁾。また、英語絵本の音読活動は、柳瀬が言う文脈や感情が伴わない「高速引用ゲーム」ではなく、意味ある文脈の中で、自分の人生を豊かにしてくれるメッセージを受容しながら、英語音声の特徴を習得する活動になり得る。音読練習は繰り返しが必須であるが、優れた作品は、何度も読む中で新しい気づきをもたらしてくれる。ともすれば、飽きてしまう音読練習にも楽しみを見出すことが可能だろう。挿絵があることも音読練習に楽しみを見出せる要素となると考えられる。何より、児童にとっては、外国語で本を読んでいるという達成感が得られるだろう。学習者が声を使って読むことで、作品から受け取ったメッセージで感じたことを表現することも可能である。このように考えると、絵本の持つ文学性に着目した外国語学習は、「高速引用ゲーム」とも呼ばれる、モデルダイアログや例文を丸覚えして機械的に反復する学習ではなく、意味を中心にした学習が可能になる。

内容理解を重視したEFLで英語絵本を使用するにあたっては、単語の意味や文構造などを明示的に教えることや、ボトムアップ・アプローチを中心にすることは避けたい。小学校段階では、学習指導要領¹⁴⁾に記載がある通り、文法の用語や用法の指導ではなく、言語活動の中で、日本語と英語の違いの気づきを促したり、基本的な表現として繰り返し触れることで英語の語順に気づかせたり、その規則性を内在化させることが求められている。しかし、教員の側は、学習指導要領に示される言語材料と照らし合わせられるよう、教材で使う作品を構成する文の種類、文構造、語の意味や用法を理解しておく必要があるだろう。そのような理

解がなければ、教材とする作品を選ぶことは困難であるし、児童の気づきや質問に対応できないことにもなりかねない。本稿の後半では、小学校でのEFLにおいて児童が音読するのに適した作品を具体的に取り上げ、作品を使った活動例の紹介とともに、EFL教材の観点から、作品を構成している語や文を分析する。

3.2 英語絵本作品の具体例

児童が楽しみながら音読をするのに適した8作品を取り上げる。どの作品も、英語音声特有のストレスを置くことでできる強弱勢によるリズムや子音で終わる語の後に母音や半母音で始まる語が続くときに音が繋がるリンキングなどを意識して読めるよう指導したい。

1. *Good Night Gorilla*¹⁵⁾ by Peggy Rahtmann

動物園のいたずら好きのゴリラが、動物たちに“Good night”と声をかけながら夜の見回りに来た守衛さんから鍵を奪い、守衛さんの後をついて動物たちの檻の鍵を開けていくお話。“Good night”の後に動物の名前が続くセリフのみで語られる。ずっとGorillaと一緒に居るネズミの様子がユーモラスに描かれるなど、挿絵が提供する物語も楽しめる。

登場する動物になりきって挨拶をする、といったゲームが可能。日本語の動物の名前の読み方は違うことに児童が気づき、強勢部分を意識して英語で動物名を言えるように指導する。

- ・ 語、連語、慣用表現 (語：8、慣用表現：1)
 名詞：(動物) gorilla, elephant, lion, hyena, giraffe, armadillo (その他) zoo, dear
 慣用表現：good night
- ・ 挨拶の表現 (“Good night, …”) のみで構成される。

2. *Color Zoo*¹⁶⁾ by Lois Ehler

コルデコットオナー受賞作^{iv)}。circle, square, triangle, heart といった形を重ねて動物の顔が作ら

れており、ページをめくって形が一つ減るごとに別の動物の顔が現れる、という仕掛け絵本。次に出てくる動物が何かを推測したり、シンプルな形で様々な動物の顔が作られる楽しさを味わえる、読者の想像力に働きかける作品。*Good Night Gorilla* 同様、強く読む音節を意識して動物や形の名前を読むことがポイントになる。作品に出てくる形を使って創作活動を行うことができる。

- ・ 語、連語、慣用表現 (語：18、用語集のみに出てくる色を表す語：15)
 名詞：(形) circle, square, triangle, rectangle, oval, heart, diamond, octagon, hexagon
 (動物) tiger, mouse, fox, ox, monkey, deer, lion, goat, snake
 形容詞：(色) blue purple, red purple, pink, red, orange, yellow orange, yellow, yellow green, green, dark green, blue green, blue, dark blue, brown, gray, black (色は用語集にのみ記載)
- ・ 各ページ単語1語のみで構成される。

3. *Bears in the Night*¹⁷⁾

by Stan & Jan Berenstain

ベッドで寝ようとしていたこぐまたちが、“Whooooo”という音を耳にして、その正体を確かめに行くお話。前置詞句のみで、こぐまたちの動きを表現している。“Out the window, Down the tree”といった前置詞句しか使われていないので、前置詞と名詞はストレスを置いて読み、間のtheは弱く読む、という強弱勢のリズムがつけやすく、テンポよく読める。同じ表現が繰り返し出てくるところも、初期学習者の児童には読みやすい要素である。前置詞句で表現される動きを言いながら実演する活動を行うと、身体で前置詞の意味を捉えることができる。

- ・ 語、連語、慣用表現 (語：23、連語：2)
 名詞：bed, window, tree, wall, bridge, lake, rocks, woods, spook, hill

擬声語：whooh

機能語^{v)}：in, to, at, out, down, over, under, around,
between, through, up, the

連語：out of, back in

・前置詞句のみで構成される。

4. *Lemons are Not Red*¹⁸⁾

by Laura Vaccaro Seeger

仕掛け絵本で、物と色がテーマになっている。はじめに出てくる物はタイトルにも出てくる lemons だ。鮮やかな黄色の背景で、右のページはレモンの形にくり抜かれている。最初のページではレモンは赤色だが、ページをめくると、レモンは黄色になる。紫色の人参、灰色のフラミンゴ、青色の草、真っ黒の月など、馴染みの色ではない物は不思議な感じがする。月の本来の色が silver で表されているところは、月を黄色で描くことが多い日本人には新鮮だ。S + V (be 動詞) + C (色) の文のみが使われるシンプルな内容であるが、日本語母語話者には難しい可算名詞と不可算名詞が使い分けられている。最初に出てくる lemons から elephants までは可算名詞で、複数形は s をつけ、be 動詞は are が使われる。単複同形の reindeer と不規則な複数形の snowmen は s がつかずに be 動詞は are が使われる。集合名詞で使われる grass は単数扱い。この後に続く the sky, the moon, the night は定冠詞の the とともに用いられ、単数形が使われる。このような文法事項は、あらかじめ教員が児童に明示的に説明する必要はないが、絵本を読むうちに複数形の s の有無や is と are の使い分けに気づいた児童にはきちんと説明できる英語の知識が教員には必要だ。ストレスを置くことで日本語とは違う読み方をする orange のような語にも注意したい。

・語、連語、慣用表現 (語：28、慣用表現：1)

名詞：lemons, apples, carrots, eggplants, flamingos,
elephants, reindeer, snowmen, grass, sky,
moon, night

形容詞：(色) red, yellow, purple, orange, gray,
pink, white, brown, blue, green, black,
silver

機能語：the, is, are, not

慣用表現：good night

・文の種類：単文、肯定・否定の平叙文

・文の構造：S + V (be 動詞) + C (形容詞)

5. *Let's Play*¹⁹⁾ by Leo Lionni

仲良しの2匹のネズミが、“Good morning!” で始まる朝から “good night!” で終える1日を楽しく過ごそうとする様子が描かれている。子どもがやってみたい、と思うような、遊びや行為を表す表現で構成されている。ほとんどが S + V (動詞) + O (名詞) の文章で構成されている。

・語、連語、慣用表現 (語：30、連語：1、慣用表現：3)

名詞：book, flowers, ball, tree, leaves, hide-and-peek,
cheese, dress-up, telephone, today

動詞：read, pick, go, play, climb, gather, eat, tall

疑問詞：what

副詞：all

機能語：let's, shall, we, could, a, or, some, on, the,
until

連語：go swimming

慣用表現：good morning, good night, it's time
to say

・文の種類：単文、肯定の平叙文、疑問文 (疑問詞)、仮定法 (仮定法が使われることで、自分たちならこんなことができるね、という意味合いになる)

文構造：S + V, S + V (動詞) + O (名詞)

6. *Where Is the Green Sheep?*²⁰⁾

by Mem Fox and Judy Horacek

タイトルが示すように、the green sheep を探すお話。The green sheep はなかなか見つからず、“Here is the … sheep.” という表現で他のヒツジが

たくさん登場する。The blue sheep のような色が特徴のヒツジから、the bath sheep (お風呂に入っているヒツジ)、the sun sheep (太陽を浴びているヒツジ)、the wave sheep (波乗りをしているヒツジ)、のように名詞を sheep の前につけることで様々な活動しているヒツジを表現している。名詞でヒツジの動作を生き生き表しているところが楽しい作品だ。語彙数は多めだが、最終ページの1ページ前以外は、使われる動詞は全て be 動詞で、“Here is the … sheep.” とタイトルの “Where is the green sheep?” が繰り返されるため、これを読めるようになると、テンポの良い音読を楽しめる。

・ 語、連語、慣用表現 (語: 36、連語: 3)

名詞: sheep, bath, bed, swing, slide, band, clown, sun, rain, car, train, wind, wave, moon, star

形容詞: green, blue, red, thin, wide, up, down, scared, brave, near, far

疑問詞: where

副詞: quietly

機能語: here, is, the, and, but, that, let's, our

連語: turn the page, take a peep, fast asleep

・ 文の種類: 単文、肯定の平叙文、肯定の命令文、疑問文 (疑問詞)

・ 文構造: S + V (Here + be 動詞 + S)

7. *From Head to Toe*²¹⁾ by Eric Carle

模倣と動きが特徴の作品である。躍動感のある動物と人間の子どもが各ページに描かれており、動物が子どもに問いかける。例えば、penguin は、“I am a penguin/ and I turn my head./ Can you do it?” と問いかけ、子どもは、首を回す penguin を真似ながら “I can do it!” と答える。動物の名前と動作を表す表現で構成される。躍動感のある動物を見て、身体を動かしながら動作の表現を習得するような活動が考えられる。また、文の形はそのまま、動物名と動作の表現が変わっていく構成になっているので、テンポよく読める。子ど

ものセリフ “I can do it!” と発話しながら、動物の動作を真似てもらうことから始めると、英語に自信がない児童も取り組みやすい。絵本に出てくる動物になりきり、絵本の表現をペアで練習することもできる。身体の部位は、動作をするのに左右とも使う場合は複数形で表される (raise my shoulders, wave my arms, clap my hands) ので、気づいた児童には説明が必要である。

・ 語、連語、慣用表現 (語: 46)

名詞: (動物) penguin, giraffe, buffalo, monkey, seal, gorilla, cat, crocodile, camel, donkey, elephant

(体の部位) head, neck, shoulders, arms, hands, chest, back, hips, knees, legs, foot, toe

動詞: do, turn, bend, raise, wave, clap, thump, arch, wiggle, kick, stomp, wiggle

機能語: from, to, I, my, am, a, an, and, can, you, it

・ 文の種類: 単文、肯定の平叙文、複文、疑問文 (助動詞)

・ 文構造: S + V (be 動詞) + C (名詞)、S + V (動詞) + O (名詞 / 代名詞)

8. *I Like Me!*²²⁾ by Nancy Carlson

私がすること、私の姿が好き。失敗しても、何度もトライする。私は私、それが好き。このような前向きな姿勢を、豚の女の子を主人公にしてユーモラスに描いた作品。思春期に差し掛かり、自己肯定感の減少も見られる高学年児童への、自分を前向きに見よう、という力強いメッセージにもなり得る。語数が多いが、その分多くの表現に触れることができる。肯定的な意味の形容詞も多く使われている。

・ 語、連語、慣用表現 (語: 53、連語: 6)

名詞: friend, things, pictures, books, teeth, food, morning, good-looking, tail, tummy, feet, mistakes

動詞：have, do, draw, ride, read, like, brush, eat,
say, feel, make, try, go

形容詞：best, fun, beautiful, fast, good, curly, round,
tiny, little, bad

副詞：again, always

その他：hi

機能語：I, my, me, myself, a, that, is, and, with,
when, in, or, what, I'll, be

連語：take care of, keep clean, get up, cheer up,
fall down, pick up,

文の種類：単文、肯定の平叙文、複文

文構造：S + V、S + V (be 動詞) + C (代名
詞)、S + V (動詞) + O (名詞 / 代名
詞 / to 不定詞)

取り上げた8冊の英語絵本で音読活動を行った
場合、取り扱うことになる学習指導要領「外国語」
内容を一覧表で表す。

表 「外国語」内容（知識及び技能）（1）英語の特徴やきまりに関する事項 言語材料の一覧表

		1. Good Night Gorilla	2. Color Zoo	3. Bears in the Night	4. Lemons are Not Red	5. Let's Play	6. Where Is the Green Sheep?	7. From Head to Toe	8. I Like Me!	
ア 音声	(ア) 現代の標準的な発音	○	○	○	○	○	○	○	○	
	(イ) 語と語の連結による音の変化	○		○	○	○	○	○	○	
	(ウ) 語や句、文における基本的な強勢	○	○	○	○	○	○	○	○	
	(エ) 文における基本的なイントネー	○	○	○	○	○	○	○	○	
	(オ) 文における基本的な区切り	○		○	○	○	○	○	○	
イ 文字及び符号	(ア) 活字体の大文字、小文字	○	○	○	○	○	○	○	○	
	(イ) 終止符や疑問符、コンマなどの基本的な符号	○				○	○			
ウ 語、連語及び慣用表現	(ア) 1の5領域の目標達成に必要な、外国語活動で取り扱った語を含む600～700語程度の語	○	○	○	○	○	○	○	○	
	(イ) 活用頻度の高い基本的な連語			○		○	○		○	
	(ウ) 活用頻度の高い基本的な慣用表現	○			○	○				
エ 文及び文構造	(ア) 文	a 単文			○	○	○	○	○	
		b 肯定、否定の平叙文			○	○	○	○	○	
		c 肯定、否定の命令文					○			
		d 疑問文 (be動詞、助動詞、疑問詞で始まるもの)				○	○	○		
		e 基本的な代名詞				○		○	○	
		f 活用頻度の高い基本的な動名詞や過去形								
	(イ) 文構造	a [主語+動詞]					○	○		○
		b [主語+動詞+補語 (名詞/代名詞/形容詞)]				○			○	○
		c [主語+動詞+目的語 (名詞/代名詞)]					○		○	○
		小学校英語の学習内容に含まれないもの								to 不定詞、複文

4. おわりに

アレン玉井²³⁾は「音読ができてその単語の意味を知らなければ学習者にとって喜びとはならない」と述べているが、記号である文字と、その記号が示す意味の両方を蓄積し、読む力を育てるのに絵本の音読は効果的な活動だと言える。強弱勢によるリズムやリンキングのような英語音声の特徴を捉えながら、内容を理解し、読めるようになることが児童の達成感にも繋がり、読む力も育てることが期待できる。

2017年告示の学習指導要領²⁴⁾では文字を読む活動が入るのは小学校5、6年生だが、実際に英語絵本を使う活動をしてみると、低学年児童のように絵本の世界に入っていない高学年児童が見受けられることも事実である。そこで提案したいのは、高学年が低学年に英語絵本の読み聞かせをするという活動である。低学年の児童は絵本の言語が英語であっても読み聞かせが始まると、あっという間に絵本の世界に入ることができる。筆者はゼミ学生による低学年児童対象の英語絵本を使った活動を観察する機会があるが、学生が絵本を読みだすと、子どもたちは静まり返り、絵本に集中する様子を何度も目にした。読み終わって拍手が起こることもよくある。低学年児童により適した作品でも、その作品を読み聞かせ、低学年児童と楽しむという目標があれば、高学年児童も真剣に取り組めるのではないだろうか。英語音声の特徴の習得も音読活動における効果となるが、聞き手と読み手の一体感を生み出すためには、絵本のメッセージを理解し、聴いている低学年に伝えよう、という意図を持つことが不可欠だ。このような活動であれば、意味を中心とした学びになり得るだろう。

今後の課題として、英語絵本を教材とすることの有用性を明らかにするためには、実践研究によって示す必要性が挙げられる。実際に小学校現場で、高学年児童による低学年児童への読み聞かせ活動を実践し、その活動を通して高学年児童が英語を

読む学習において、どのような変容が児童に見られるのかについて調査したいと考えている。

注

- i ベネッセによる高1生の英語学習に関する調査²⁵⁾によると、音読やリピート練習以外で、1回の授業で英語を話している時間は、5分未満が69.1%である。また、「英文を日本語に訳す」は57.3%の生徒が、「文法の問題を解く」は46.8%の生徒が、48.3%の生徒が「単語や英文を読んだり書いたりして覚える」を「よくしている」と回答している一方、「自分の気持ちや考えを英語で書く」は22.9%、「自分の気持ちや考えを英語で話す」は20.6%の生徒が「よくしている」と回答している。
- ii 本稿における文学作品の定義は、このCollie & Slaterの文言を使用する。
- iii 現行の学習指導要領においては、外国語を読む領域は小学校5・6年で取り扱われることになっているため、本稿では音読活動の対象は基本的には高学年児童を想定している。4年生までの児童には英語絵本の読み聞かせ活動を勧めたい。読み聞かせを行う中で、低・中児童が自発的に読みたいという気持ちになれば、音読活動を行うことは可能だと考える。
- iv コルデコット賞(Caldecott Medal)は、アメリカ合衆国でその年に出版された最も優れた子ども向け絵本に授与される。コルデコットオナー賞は次点の候補に授与される。コルデコット賞受賞作品の表紙には金色のメダルのシールが、コルデコットオナー賞受賞作品には銀色のメダルのシールが貼られている。このような賞の受賞は選本の際に参考になる。
- v 助動詞、冠詞、指示詞、前置詞、接続詞を機能語、名詞、動詞、形容詞などを内容語と分類する。通常、機能語は弱勢、内容語は強勢で読む。

引用文献

- 1) イーガン, キエラン. 『想像力を触発する教育 認知的道具を活かした授業づくり』. 高屋景一, 佐柳光代 (訳). 北大路書房, 2010, 222.
- 2) 柳瀬陽介, 小泉清裕. 『小学校からの英語教育をどうするか』. 岩波書店, 2015, 61.
- 3) アレン玉井光江. 『小学校英語の教育法—理論と実践』. 大修館書店, 2010, 290.
- 4) Collie, Joanne.; Slater, Stephen. *Literature in the Language Classroom: A Resource Book of Ideas and Activities*. Cambridge University Press, 1987, 266.
- 5) Tuemer, Tugce Cankaya. *Using Literature to Enhance Language and Cultural Awareness: A Case Study*. VDM Verlag Dr. Muller, 2010, 375.
- 6) スミス, リリアン H. 『児童文学論』. 石井桃子, 瀬田貞二, 渡辺茂男 (訳). 岩波書店, 1964, 2008, 399.
- 7) 松居直. 『絵本とは何か』. 日本エディタースクール出版部. 1973, 2003, 386.
- 8) 脇本聡美. 「子どもの成長と絵本: 子どもの翼がはばたくために」. 神戸常盤大学紀要. 2011, 11-19.
- 9) ニコラエヴァ, マリア, スコット, キャロル. 『絵本の力学』. 川端有子, 南隆太 (訳). 玉川大学出版部, 2011, 416.
- 10) 河合隼雄, 松居直, 柳田邦男. 『絵本の力』. 岩波書店, 2001, 2009, 205.
- 11) 松居. 前掲書 7).
- 12) アレン玉井光江. 『小学校英語の文字指導 リタラシー指導の理論と実践』. 東京書籍, 2019, 210.
- 13) MEXT. 『小学校学習指導要領 (平成 29 年告示) 解説 外国語活動・外国語編』. 開隆堂, 2018, 205.
- 14) MEXT. 前掲書 13).
- 15) Rathmann, Peggy. *Good Night Gorilla*. Puffin Books, 1994, 2000, 40.
- 16) Ehlert, Lois. *Color Zoo*. Harper Festival, 1997, 26.
- 17) Barenstain, Stan.; Jan. *Bears in the Night*. Random House, 1971, 1998, 36.
- 18) Seeger, Laura Vaccaro. *Lemons are Not Red*. Square Fish, 2006, 32.
- 19) Lionni, Leo. *Let's Play*. Knopf Books for Young Readers, 2003, 28.
- 20) Horacek, Mem Fox and Judy. *Where Is the Green Sheep?* HMH Books for Young Readers, 2004, 32.
- 21) Eric Carle. *From Head to Toe*. Harper Collins, 1997, 32.
- 22) Carlson, Nancy. *I Like Me!* Viking Books for Young Readers, 1988, 32.
- 23) アレン玉井. 前掲書 12).
- 24) MEXT. 前掲書 13).
- 25) ベネッセ. 「高1生の英語学習に関する調査 < 2015 - 2019 継続調査 >」 <https://berd.benesse.jp/global/research/detail1.php?id=5467>, (参照 2020-11-22).